

アンケート結果を受けて改善したいところ 【人文社会科学系】

授業の展開を学生に任せすぎて、私自身による説明や授業準備が不十分な面があった。授業に関する評価より教員に対する評価が低い傾向にあるのはおそらくこのためであり、この点はきちんと反省し、改善につなげたい。

また全体講義とのつながりが不明であるとの記述もあったが、これは指摘の通りで、改善しなければならない点である。これまでなかった全体講義が新たに導入された最初の年度ということもあり、授業の計画や準備の段階でそこまで注意が及んでいなかった。全体講義の内容を意識して演習の授業も行うという、あたり前の点を改善しなければならない。

毎回でなくても、授業の最後に振り返りのレポートを書かせることを行ってみたい。

学生たちが、自己表現につなげられるような工夫をくわえていきたい。

・2017年度授業内に教員から説明を行いました。性差で着席を変えることは一切取りやめます。男女別の席替えは、どの席替えよりも効果を生んでいましたが、「性的マイノリティーへの配慮」が非常に難しいという事情からです。

・教員がわかりやすく話すために、内容を精査し、繰り返して話すぐらいの時間的な余裕を作りたいと考えています。

・中間レポートの提出後、1人13分程度、クラス全体で8時間程度の添削コメントを教員が記入し、一人ずつ返却しました。最終回の授業時間に、学生に「中間レポート後の添削」に関して尋ねたところ、受講生全員の約40%からは感謝されましたが、約60%から、添削の軽減、方法の改良、添削しても読まないなどの意見をもらいました。長年の間、初年次教育の「レポート指導」では、教員の添削について、問題になっています。そこで、内容面と表現面に分けて、効果的な指導方法の開発を行っていきたくと考えています。

授業内容はちょうどよいということであったが、授業時間外での学習時間が少ないようなので、さらに学習していただけるよう課題の内容を検討したい。

学生自身で予習復習がきちんとできていれば、授業内でしっかり演習できると思いますが、学生全体に行き渡るようにはっきりと説明してゆきたいと思います。

これからも分かりやすい説明を心掛け、学生が意欲的に取り組めるように努めたいと思っております。

すべての受講生を万遍なく満足させることは出来ないかもしれないが、英語の習得で自らが苦労してきている経験を踏まえて常に受講生の視点に立つように努め、授業内容にメリハリを持たせるよういろいろと工夫するよう努めたい。また、効果的な授業を展開できるよう学生とのコミュニケーションをさらに密にしながら、様々なアイデアを取り入れたいと考えている。

・音楽や美術等は自分の専門外ということもあって、講義も視聴覚資料に頼りがちになってしまいがちだが、例えば「現代史と音楽・美術」といった別の観点から自分でも語りうる分野があるのではないかと考えている。

・限られた授業時間数のなかでは、ロシアの歴史・地理の概説、ロシア文学や舞台芸術の紹介に終始してしまっているが、時間配分を工夫して北方領土などの現代政治の課題などについても授業で扱っていききたい。

・学生から出される質問に対して十分に回答できなかったところが未だあり、その点は今後、自分自身も研鑽を積んでいきたいと思っている。

・教科書の内容に準拠しながら、日々新たに生じている憲法問題もその都度、学生に紹介する取り組みをして、もっと身近な問題として憲法を考えてもらえるような工夫をしていきたい。

概ね妥当な結果で、授業の創意工夫の結果が表れていて、よしとしたい。ただ、学生の予習復習の時間を作る出す方法を考えなければならないと思っている。

教科書の難易度は適切であったようであるが、内容が必ずしも学生の希望と一致していなかったかもしれないので、以後気をつけたい。また、学生が理解できているかどうかを確認しながら授業を進めるよう、もう少し努力すべきかもしれない。

教科書の難易度は適切であったようであるが、内容が学生の希望に一致しているかどうか、個人によって、あるいは、教育単位によって大きく異なるため、良し悪しの判断が難しい。改善のためには、学生とのコミュニケーションをもっと大切にしたい方がよいかもしれない。

週当たりの学習時間の項目で、1時間未満と回答した学生が40%と一番多かったのが反省点。せめて1～2時間と回答する学生が多数を占めるよう、今後、指導法を改善したい。

自由回答によると「英作文に使いそうだった」「前回、別な先生の英語コミュニケーションが苦痛で仕方なく今回リカバリーで受けましたが、すごく学びになりました」などの回答が寄せられ、一応、高評価を得ているようである。

反省点として、「週当たりの学習時間」について1時間未満と回答している学生が半分ほど居たので、もう少し予習・復習に時間を掛けさせるような方向で、授業改善できればと考えている。

授業では、とくに、レポートの書き方、参考文献・資料の検索の仕方や情報収集などの方法や技能が身につくことに力点を置いたにもかかわらず、問2・問3の回答において、③～⑤のマイナス回答が、問2では全体の43.8%、問3では全体の50%を占めたことに反省している。課題に対して自らが問題点を見出し、アプローチし、発言する・行動するということが達成できるように、今後、より留意して授業を構築する。

色々な授業の仕方を試しながら、教え方により幅のある授業を行えるようにできればと思います。

意外に的を得たアンケート結果が出ているように思う。授業の難易度は「難しい」と回答した学生が多かったが、来年度はもう少し簡単な教科書を選び、丁寧な授業を心がけたいと思う。そしてアクティブラーニングの要素を多く取り入れ、楽しく語学が身につく授業をしたい。問8の「教員の話し方」については、今回も高い評価を得た。意識して大きな声を出すように心がけた成果が出ていると思われる。自ら発信できる語学が身につくよう、さまざまな改善を試みたいと思っている。

英語1の授業ではあったが、英作文や英語でのコミュニケーション活動もしたいという声があった。英語の授業は単なる講義ではなく、学生の皆さんにも発言してもらって成り立っているのも、そのなかに、より多くのアクティブラーニングを盛り込んで、多くの皆さんの参加を求める時間を組み込みたいと思う。

問1で高い回答率だったのに問9ではそこまで行かないクラスもあったので、この矛盾点が、教師の問題なのか学生本人の問題なのかよく見極め今後は、さらによく説明していくつもりである。

TOEICを重視した講義内容のため、TOEIC受験を義務付けられている学生は、ある程度の満足感を持って受け止めているように思う。しかし、自主的な問題解決や学生同士の深めあいという点での刺激を与えることは難しく、教科書以外のニュース教材を足すと、もう少し幅広い興味をひくのではないかと考える。

英語が専攻科目に含まれる専攻のクラスと全くの教養科目のクラスを教えました。英語が専攻科目のクラスには授業内容が合っていたようですが、全くの教養クラスにはやや難しかったと思われるので、運営方法を検討したいと思います。

学生のもとも持っている英語力やモチベーションが大きく異なるため、全員に対応した授業方法を模索しながらやってきた。人数も多いことから、なかなか個人の質問に対応できなかったのも、今後はもう少し学生とインタラクションを取りながら進めていきたい。

英語が苦手な学生が多かったため、まずは英語を話すことに慣れてほしいという願いから、なるべく明るく楽しい授業を心掛けた。既知の内容と新たに学んだ内容の両方をフルに生かせるような活動内容を考え、学生全員が主体的に参加できるようにしていきたい。

シラバスで予定した内容と並行し時事問題を扱いましたが、この期の時事問題は扱いが難しく、時間をかけ説明しても理解されにくく、また、結果として、特に学期の終盤には早口で急いだ内容も多かったと反省しています。トピックスの選定にさらに注意していきたいと思います。